



末吉小だより

横浜市立末吉小学校

学校だより

令和8年 6月号

「いつも」から一步踏み出す、子どもたちのきらめき

校長 高山 和宣

爽やかな風とともに、きらきらとした初夏の日差しが降り注ぐ季節となりました。新しい学年がスタートして2ヶ月が経ち、子どもたちは毎日の学校生活の「いつものリズム」をしっかりと身に付け、落ち着いて学習や運動に取り組んでいます。

この「毎日のルーティン（規則正しい習慣）」は、子どもたちの心の安定にとって何より大切な土台です。しかしそれと同時に、日々の枠から一步踏み出し、「いつもと違う新しい経験」をすることも、子どもたちの可能性を大きく広げる起爆剤となります。

先日、6年生は日光への修学旅行に行っていました。普段の生活では豊かな自然に触れ合う機会が少ないためか、いろは坂のカーブを進むにつれて窓の外に広がる壮大な景色に、バスの車内からは大きな歓声が上がっていました。華厳の滝、湯滝、或いは歴史の重みを感じる日光東照宮の佇まいなど、子どもたちは五感をフルに働かせ、実感をもって人や物事に関わっていたように思います。こうした未知の事柄に出会うとき、子どもたちの心の中には、確かな成長の変化が生まれます。

子どもたちは、初めてのものに出会うと「なんで？ どうして？」或いは「どうしたらいいのかな？」などと自分なりに考え始めます。

未知のものや初めての場所などで考え、行動していくことのプロセスこそが、予測不可能な時代を生きるための「問題解決能力」や「しなやかな思考力」を育てていくと考えています。

さらに、初めてのことに挑戦するときには、最初からすべてがうまくいくとは限りません。集団行動の中で、時には小さな失敗や壁にぶつかることもあります。しかし、仲間と声を掛け合ってそれを乗り越えたときの達成感は、何物にも代えがたい「自己信頼感」となり、次のモチベーションへとつながっていきます。

学校では、6月からも日々の教科の学習はもちろん、様々な体験活動や地域の方々との交流など、子どもたちが新鮮な驚きや発見に出会える「仕掛け」をたくさん用意していきます。小さな失敗を恐れず、安心して「新しい一歩」を踏み出せるよう、教職員一同、子どもたちの挑戦を温かく支えてまいります。

ご家庭におかれましても、「今日、新しく見つけたことは何？」とお子様とのおしゃべりを楽しみながら、その小さな成長の芽と一緒に見守り、励ましていただければ幸いです。今月もどうぞよろしく願いいたします。